CoReCa

TJF

2016-2017
事業報告

人やモノや情報が国や地域を越えていくグローバル社会。
日本国内でも学校で、地域で、職場で、
多言語・多文化状況が進んでいます。
グローバル化が進展するこれからの時代、
子どもたちの活躍の舞台はますます
世界に広がっていくでしょう。
こんな時代を生きていく子どもたちが
自分たちの未来を切り拓いていくために
必要な力は何でしょうか。
他者と対話する力、共感できる力、
異なることば、異なる文化の人びとと協働し、
新しい何かを創造する力……
私たちはこれらの力を育むための
外国語教育と交流事業を国内外で行っています。

TJF's Mission

CoReCa 2016-2017
公益財団法人 国際文化フォーラム事業報告

〒112-0013
東京都文京区音羽 1-17-14 音羽 YKビル 3F
Tel 03-5981-5226
Fax 03-5981-5227
Email forum@tjf.or.jp
URL www.tjf.or.jp
Facebook facebook.com/TheJapanForum

2017年 8月発行

デザイン 山本義明（goldfish design）
表紙写真 mick park
校閲・校正 飯田陽子
印刷・製本 豊国印刷株式会社

目次

2　評議員会長あいさつ
3　理事長あいさつ

特集
「探究」って何だろう?

4　探究する姿から見えてくるもの
稲垣 忠（東北学院大学教養学部教授）

7　探究心に火をつける
庭井 史絵（慶應義塾普通部司書教諭）× 稲垣 忠

10　自分の美学を追い続ける
川口 知美（舞台衣装家）× 稲垣 忠

14　日露の教師・生徒交流 ..... ロシアの人びとの暮らしにふれる
16　日本の情報発信 ..... 留学生が気になる人にインタビュー
18　日韓の中高生交流 ..... 楽しかったとき、つらかったとき
20　日韓の校長交流 ..... 校長から始まる学校間交流
22　教師研修 ..... プロジェクト学習・探究学習のワークショップ
24　外国語学習のめやす ..... 広がる「めやす」研修
25　隣語講座 ..... もっと隣語を知ろう
26　中国の日本語教育 ..... 教科書「を」から教科書「で」へ
27　メールマガジン ..... 「わやわや」を月2回配信しています
28　りんごをかじろう ..... 身近な文化、遠い文化にふれてみよう

29　TJFを支援してくださっている方々
30　2017年度の事業
31　財団の概要

機関・団体の名称および所属・肩書きは事業実施時のものです。

評議員会長あいさつ

知りたいと思うことが原点

野間（のま） 省伸（よしのぶ）

昨今のインターネットをとりまく状況やＡＩ（人工知能）の動きは、人の学びや生き方にも影響を与えようとしています。ＡＩはすでに私たちの日常生活にあり、これからますますその比重は増してくるでしょう。このような時代にあって大事なことは何でしょうか。ＡＩとしりとりをすれば、おそらく負けます。必要なのは、ＡＩに負けないようにことばの数を増やすことではなく、ＡＩとのつきあい方を知り、人にしかできないことは何かを考えることだと思います。

こうした本質的なことを幼いころから考えていくことが必要です。このとき原点となるのは、個人の興味、関心です。言われて仕方なくやる勉強は勉強嫌いを生みますが、自分が好きになったことは自ら調べるようになります。どれだけおもしろいと思えるのかが大事なのです。

私もイギリスに赴任していた20代に、知人が勧めてくれたのをきっかけにワインを好きになり、本を読んだりシャトーを訪ねたりするようになりました。ボルドーワインはどの品種をどの割合で使うのかによって味が変わってきます。そして、同じ品種でも年によって出来が違います。またブルゴーニュのワインは単一品種で作られるのですが、同じ年の同じ品種でも作り手によって味は違います。ぶどう畑の日当たりや土壌も影響するなど、さまざまな要素が絡みあっているのです。これらを知れば知るほど、ワインの奥深さに気づくと同時に、ワイングラスやワインオープナーなどにも興味がわき、楽しみが広がっていきました。

どんなことで「知りたいスイッチ」が入るのかは、人によって異なりますから、私たち大人はできるだけ多くの種をまいておきたいものです。そして、時代の変化にあわせて種の種類を変えていければいいと思います。

公益財団法人国際文化フォーラム（ＴＪＦ）は今年で設立30周年を迎えます。若い人たちが自分の世界を広げるために、「ことばと文化」をキーワードに活動を続けてこられましたのも皆さまのご理解、ご協力があったからにほかなりません。心より御礼申し上げます。そして、今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長あいさつ

興味が探究心に結びつく

渡邊（わたなべ） 幸治（こうじ）

中学生や高校生はみずみずしい感性をもっています。自分では気づかないかもしれませんが、その時期に体験したことはときに後年の興味や関心、探究心に結びつくことがあるように思います。

私は、１９５６年に留学したアメリカの地で豊かな生活を目の当たりにし、非常に驚いたことを鮮明に覚えています。何よりも素晴らしいと思ったのは教室内で感じた自由な空気でした。学生は政治や社会情勢などについて自分の意見や考えを堂々と発言するのです。教授も対等に向き合います。私は非常に身近なところで自由で豊かな民主主義を体感したわけです。これが私のものの考え方、ひいては生き方そのものに大きな影響を与えたと感じています。

しかし、思い起こせば、原体験はもっと遡ることができます。それは中学生のときに観たハリウッド映画です。初めて観たのは「我等の生涯の最良の年」（The Best Years of Our Lives）でした。ハンフリー・ボガートとイングリッド・バーグマン主演の「カサブランカ」は何回も観ましたし、中学高校を通じてずいぶん多くのハリウッド映画を観ました。映画に描かれていたのは、まさに自由で民主的なアメリカの社会でした。

私は、自由で民主主義を奉ずる米国の影響力は普遍的なものだと考えてきましたが、去年の大統領選挙の結果登場したトランプ政権によって、この私の米国観は少なからず揺らいでいます。自由と民主主義のチャンピオンとしてのアメリカに大きな陰りが見られるのではないかと感じています。毎日のように、ニューヨーク・タイムズ紙、ロンドン・エコノミスト誌等に目を通し、自由と民主主義を奉ずるアメリカの動きを追ってきました。今後どうなっていくのか、アメリカ探究の旅は現在も、そしてこれからも続くのだと思います。

人にはそれぞれ探究の道があります。ＴＪＦの事業に参加した人たちにとって、そこで体験することがその探究の一助となり、人生において何らかの栄養になっていくことを願ってやみません。

ＴＪＦの事業にお力を貸してくださっている方々に御礼を申し上げますとともに、今後もご協力をよろしくお願い申し上げます。

「探究」って何だろう？

変化の予測が難しい社会を、自らの可能性を追求しながら幸福に生きていけるよう、探究心を育てることが重視されています。本来、探究とはどういうものなのでしょうか。探究的な学びを支援する先生と、よりよい舞台をめざして試行錯誤を続ける舞台衣装家の方へのインタビューを通して、探究心に火がつくきっかけや探究を続ける原動力は何か、探究はどういうプロセスをたどるのかを探りました。聞き手は、教育工学が専門で、探究学習をテーマとしたＴＪＦの研修の講師でもある稲垣忠・東北学院大学教授にお願いしました。

探究する姿から見えてくるもの

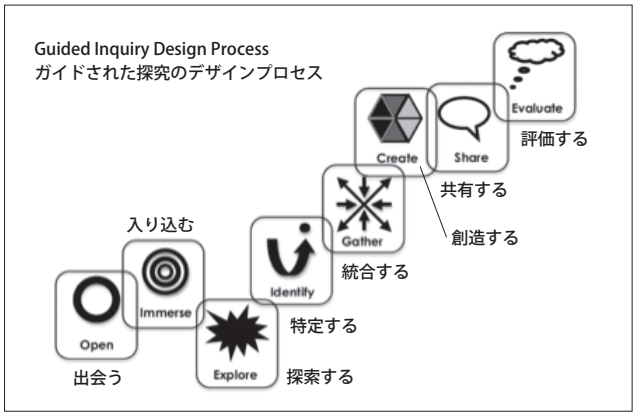
稲垣（いながき）　忠（ただし）　東北学院大学教養学部教授

空腹を満たしたい、眠りたいなど、私たちにはさまざまな欲求があります。生理的な欲求もあれば、旅行に行きたい、友だちに認められたいといった興味や社会的なつながりに類するものもあるでしょう。心理学者のマズローの欲求段階でいえば、最上位に来るのが「自己実現」です。自分の能力を存分に発揮して、なりたい自分、あるべき自分をめざすこと。探究とは、まさにこの自己実現を追究する営みです。

重視される「探究」

高等学校向けの次期学習指導要領

撮影：劉成吉



クールソーの
「ガイドされた探究」

Kuhlthau, Maniotes, and Caspari 2012, p.31

の議論が進められています。高大接続改革の動きもあるなかで、キーワードのひとつになっているのが「探究」です。例えば、総合的な学習の時間を「総合的な探究の時間」に名称変更することや、「理数探究」や「古典探究」「日本史探究」などといった科目が検討されています。探究は、学習者が課題を設定し、必要な情報を収集し、整理・分析し、まとめたり、表現したりする過程として現行の学習指導要領から言及されてきました。「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を通じて、めざす学びの姿として、より一層重視されるようになったといえるでしょう。

「アクティブ・ラーニング」が話題になったとき、勢い、「アクティブ・ラーニングをどう教えるか」といった書籍が大量に出版されました。現在は「主体的・対話的で深い学び」と言い換えられましたが、やはり「○○のような授業をすれば主体的な学びだ」「対話的な学びはこうつくる!」といった提案を見かけます。

ここで注意したいのが、アクティブ・ラーニングにしても、主体的・対話的で深い学びにしても、ラーニング(学び)であり、指導でも授業でもないことです。もちろん教師として生徒たちと関わる場は授業が中心です。ただし、教師は、あくまで学びが起きるためのきっかけを提供しているにすぎません。生徒たちが自ら動き、自分の頭で考え、他者と意見を交わし、「これを伝えたい」「こういうことだよ!」といった確信に満ちた表情がうまれたときに、深い学びが生起したといえるでしょう。

教師の関わり方

生徒たちの探究する道のりに教師はどのように関わっていくのでしょうか。綺麗に舗装された明るい道を絶えず安全確認しながら生徒たちを歩ませるのでしょうか。どこが道かもわからない藪のなかを生徒たちが掻き分けて進むのをただ黙って見ていればいいのでしょうか。クールソーの「ガイドされた探究」(Guided Inquiry)では、探究プロセスを7つのステージでとらえ、そこでの学習者の具体的な行動だけでなく、思考(認知)や情意面の変化を示し、教師がそれぞれのステージでどのように働きかけるのかを整理しています。課題を投げかける、学習計画に助言する、生徒の視野を広げる、励ます、ときには壁になる、学習環境を提供する、教師がやるべきことはたくさんあります。

ただし、教師の役割を思い浮かべるより前に考えるべきことがあります。生徒たちが探究する道のりを想像し、何を思考し、どんな気持ちで学びに従事し、どのように成長していくのかを見極めることです。生徒の立場になって探究の道のりをシミュレーションすることから始め、授業の役割を見定めることで、教師主導でもなく、生徒任せにもしない、教師の果たすべき役割が明確になります。

探究のプロに聞く

生徒たちは探究的な学習活動を通して何をつかむのでしょうか。そもそも、本来の探究とはどのようなプロセスをたどるものなのでしょうか。今回、2人の「探究のプロ」へのインタビューを通して、その内実を明らかにすることを試みました。

1人めは、慶應義塾普通部で司書教諭をされている庭井史絵さんです。庭井さんの学校には昭和2年から取り組んでいる「労作展」と呼ばれる学校行事があります。生徒一人ひとりが自分の目標をもち、調べたり、体

験したり、考えたりといった試行錯誤を繰り返しながら成果物を生み出していくこの行事は、探究の元祖といえる取り組みのひとつです。庭井さんは、司書教諭の立場で探究に生徒たちが取り組んでいくための学び方の指導をされています。課題の解決につながる情報をどう入手するか、集めた情報から自分の考えをどう見出すかなどです。先ほどの「ガイドされた探究」のように、探究を一連の学習プロセスとみなす考え方は、図書館情報学の分野を中心に発展してきました。探究を支えるスキルのひとつが、※情報活用能力だといわれています。庭井さんはそこをどう指導されているかを伺いました。

慶應義塾普通部の図書館は、放課後に生徒たちが集まり、授業の課題や労作展に向けて準備をするラボのような役割をしています。授業とは別の場所で、生徒たちがそれぞれに探究する様子を見守ってこられた庭井さんから、いくつか労作展の例をご紹介いただきました。夢中になって探究する生徒たちの姿から、まさに自己実現としての探究の実像が見えてきました。

2人めは、金沢で舞台衣装のデザインをされている川口知美さんです。衣装のデザインというと、直感あるいはインスピレーションありきで仕事をするイメージをもつかもしれません。ところが実際には、舞台の主題をつかみ、情報を集め、デザインのコンセプトを練り、提案し、形にしていく、まさに探究的に仕事をされています。さらに、このプロセスには演出、俳優、美術、照明などさまざまな役割を担う専門家がいて、彼らと分業しながら、コミュニケーションを積み重ねます。そして、舞台は上演されたら終わりではなく、観客によってさまざまに解釈され、批評されます。「山が立つ」「バランス」といったことばの向こうに、探究を通して追い求める川口さんの美学が見えてくる、そんなインタビューでした。

特に興味をひかれたのは、振り返りの場面です。ひとつの仕事が終わったときに、衣装そのものの良し悪しというよりも、つくるまでのプロセスがどうだったのか、自分の意図や思いがどの程度届いたのか、チームの個性が舞台にどう反映されたのかを振り返っています。川口さんは気づいた課題やもっとこうしたいという思いを見つめ、次の舞台へとつなげています。自分自身を俯瞰すること（メタ認知）を強く意識して試行錯誤を積み重ねる姿は、探究的な学びを繰り返しながら学び続ける、学習者の姿でもあります。そして、実は、企業で商品を企画・提案する人、開発する人、営業・販売する人、公務員としてさまざまな施策を企画・実行する人など、多くの方が仕事のなかでこのような探究的な学びをされているのだろうと思います。

お二人へのインタビューを通して気づかされたことがあります。探究には学ぶ楽しさの本質が凝縮されているということです。新たな課題に出会うワクワク感、わからない、伝わらないもどかしさ、自分の考えが「見えた」ときのスッキリ感、つくりあげた満足感と次をもう考えてウズウズする気持ち。探究をそれらしいルーチンで終わらせることなく、こうした「学びに向かう態度」を生徒たちの内面に耕していくために、教師に、学校にできることは何か。これもまた、探究しがいのある課題だと思います。

※世の中のさまざまな事象を情報とその結びつきとして捉え、情報及び情報技術を活用して問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりする資質・能力。次期学習指導要領では、すべての学習の基盤となる資質・能力として、言語能力とともに情報活用能力が位置づけられている。

探究心に火をつける

語り手…　庭井 史絵（にわい ふみえ）　慶應義塾普通部司書教諭
聞き手…　稲垣　忠

撮影：劉成吉

司書教諭としての仕事

稲垣　庭井先生は中学校（男子校）で学校図書館専門の司書教諭をされているんですよね。

庭井　はい、基本的には図書館業務全般をやっています。授業ももっていますし、クラス担任をする年もあります。

稲垣　授業は何を担当されていますか。

庭井　中学1年生を対象に図書館の授業をしています。国語の授業の一部です。図書館の利用方法、情報の探し方、参考図書やデータベースの使い方、メモの取り方、引用や出典の書き方、パワーポイントや模造紙にまとめる際のコツなどを取りあげます。オリジナルの教科書もつくりました。

稲垣　そういった情報活用能力は他の教科で生かされたりしているのでしょうか。

庭井　例えば、社会科で、国をひとつ選んで、特徴を調べて、パワーポイントを使って発表する課題があるんですが、テーマの絞り方とか、統計資料や新聞、年鑑の使い方、出典の書き方など、関連する内容を事前にやっておいて、それが生かされるようにしていますね。

稲垣　授業以外でもリサーチの相談にのったりしますか。

庭井　そうですね。理科のレポートが大変な学校で、ほぼ毎週、2時間連続の実験があって、そのあと報告レポートの課題が出ます。形式はきっちり決まっているのですが、わたしも資料の探し方や参考文献の書き方などの相談に応じています。

元祖「探究」！　労作展

稲垣　庭井先生の学校の特色でもある「労作展」はどんなものですか？

庭井　論文執筆や工作など、自分で選んだ課題に取り組んで、その成果を発表するという行事です。大学生OBに労作展でどんなことをしたか話してもらったり、過去の優秀作品の展示を見たりしながら、5月にはそれぞれテーマを決めます。内容に従って担当の先生が決まり、説明会が一回あって、あとは自分のペースで取り組んでいく。そして9月末に展覧会が開かれます。提出は必須ですが成績には関係なく、まったく自

由で主体的な学習活動です。労作展がやりたいからこの学校に来たという生徒もいっぱいいるんですよ。

稲垣　生徒たちのテーマは？

庭井　ほんとにいろいろです。ハニカム構造の分析をしたり、カビやヒキガエルを研究したり、バッティングフォームを追求したり、お遍路さんをしてみたり。仏像を彫る子やヴァイオリンを演奏する子もいれば、犬小屋をつくる子もいます。

稲垣　テーマがとても多様ですが、途中の支援がなくても大丈夫でしょうか……。

庭井　もちろん、質問にくれば相談にのりますが、授業のなかで、指導のための時間をとることはないですね。でも、生徒は、教員だけでなく、家族や地域の人に相談しながら進めていますよ。労作展では、製作過程を日誌に詳細に記録することを生徒に求めています。わたしは、作品よりもむしろこの日誌を読むのが好きで。試行錯誤している様子がよくわかるんです。

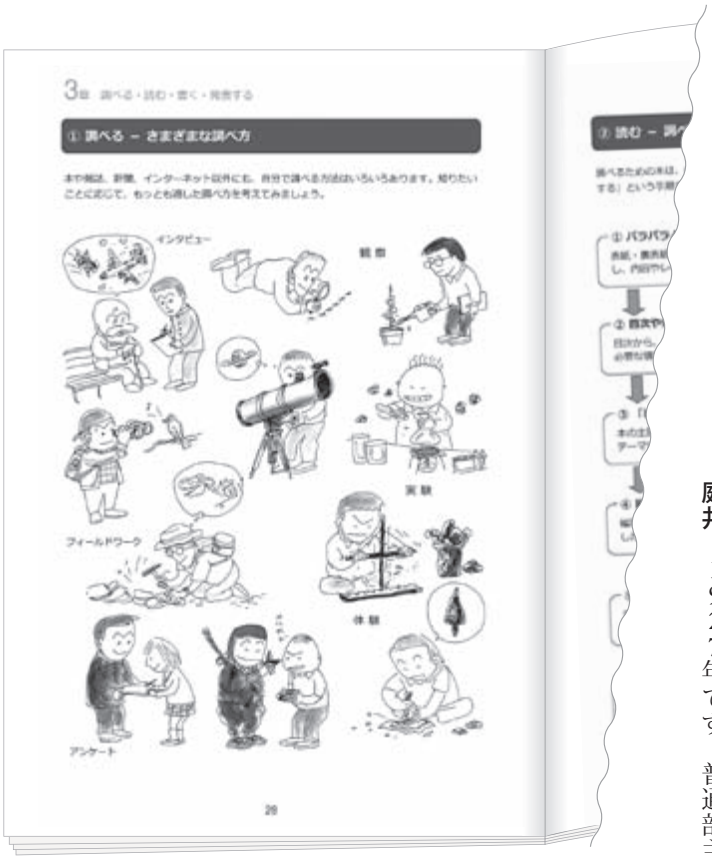
稲垣　「労作展」はいつ始まったんですか？

庭井　1927年です。普通部主任だった小林澄兄（すみえ）が、ドイツの「手工教育」を手本に労作主義教育として提唱し、始まりました。知識偏重にならず、実際に手を動かし、何かをつくる過程を通して学ぶことをめざしています。

稲垣　探究の元祖といってもよさそうです。労作展の活動で、庭井先生や図書館はどんな役割を果たすのでしょうか。

庭井　テーマのヒントになる本を展示することから始まって、大学図書館の本も含めた資料提供、どこで材料を買うかとか、誰に聞けばいいかとか、そんな相談にものります。もちろん、図書館の授業でも、労作展の取り組みに必要なリサーチのスキルを取り上げるようにしています。

　あとは、普段から、放課後に図書館に来て教科の課題をやっている生徒が多いので、労作展のテーマともつながるような本を紹介したりして、教科での学びや興味関心が探究につながるような働きかけをしていますね。



図書館の授業で使うオリジナルの教科書

問いをもって自ら調べる

稲垣　生徒たちの労作展の事例をもう少し聞かせてもらえますか。

庭井　例えば、この小河有史君は、3年間相談にのった生徒です。1年生のときは、学校がある日吉の地域研究をしました。資料探しの相談に来たので、郷土資料は横浜市立図書館に行ったほうがいいとか、いろいろアドバイスしました。2年生のときには、社会科の学習と関連させて、ゴミの不法投棄の状況を調べてデジタル地図をつくりました。3年めは、

5月5日。サバイバルキャンプ開始。1時ごろに諸注意を聞き、6時の再集合までにコンビニで食料を調達した。6時の再集合の後は、各自で寝床を作るなり、料理をするなり、つりをするなり、こいのぼりを作って飾るなりと、密度の濃い「自由時間」を過ごした。僕はみんなが施設見学をしている間、大きめなテントを寝床として確保した（施設はもう事前にあらかた見てしまった）。後で気がついたのだが、寝床をテントとして確保するのは防寒やプライバシーを守る上で重要なことだった（図22）。

図22：テントの寝床

小河君の製作日誌

消費期限切れのものばかりがつまった防災バッグを家で見つけたのがきっかけで、防災をテーマにしていました。神戸に行ってインタビューしたり、防災キャンプに参加したり、実際に学校から家まで歩いてみて、帰宅マップをつくったりしました。東日本大震災のときには高校生でしたが、このマップづくりで確認していた安全なルートで家まで帰ったそうです。彼はアイディアが豊富で、図書館で話をしながら、「じゃあ、次これをやろう」ってよく思いついてました。

稲垣　「次これをやろう」って自分で見つけられるところ、素晴らしいですね。

庭井　テーマが広がりすぎて、方向性を見つけるのに苦労しているときもあって、情報収集の相談にのりながら、やりたいことやできることを整理してあげたり、書き方やまとめ方をアドバイスしたりしました。

　気になること、知りたいことを自分の力で明らかにできて、「わかった！」「伝えきった！」という満足感があったんでしょうね。問いをもって何かを調べる楽しさにはまったようで、大学でも研究を楽しみ、卒業後はアメリカに留学してます。

自ら探究する力の源

庭井　最近だと、この古守廉君の作品がおもしろかったです。子どものころから落語好きで、3年間毎年、オリジナル落語を演じてDVDにまとめていました。実は、先ほどの小河君と違って、労作展のために、彼を直接手伝ったことはないんです。書庫にあった古い資料を出してあげたぐらいかな（笑）。

　創作落語なので、テーマだけ見ると、情報活用能力との関わりは薄いような気がしますよね。でも、作品をつくるまでのプロセスが、もう探究そのものなんです。彼の製作日誌を読むと、ほんとおもしろくって。あちこち行って、いろいろな人の話を聞き、見たこと聞いたことすべてがネタにつながっていく過程が全部書いてあって。

（左）落語の練習をする古守君
（右）3年間の製作日誌

　例えば、2年生の作品では、地元の歴史をテーマにした落語をつくることになるんですけれども、関連図書を読み漁ったり、公共図書館で古い地図を入手したり、地元の広報誌のコピーを取り寄せたりといった王道の情報収集をしながらも、おじいさんとその友だちとの宴席にまぎれこんで聞いた話にヒントを得たり、短期留学先でホストファミリーに英語で落語を演じて感じたことを取り入れたりして、最初のストーリーからはかなり違った展開の台本を書いていくんですね。

稲垣　それは、庭井先生が授業でやっている「レポートを書くための情報探索のプロセス」とは違いますよね。

庭井　そうですね。でも、例えば、これを聞いてここが疑問だったらこっちを調べるみたいな、情報収集のスキルがちゃんと使われているんです。新聞や雑誌を読んだら、直接関係あることも、そうでないことも気になったことは全部切り抜いておいて、取捨選択して自分のネタにするとか。わたしたちが教えると、テーマを決めて、資料を調べ、インタビューをし、整理・分析して、レポートを書くというひとつのパターンになりがちなんですけど、レポートではなくて、落語を演じるという創作活動にリサーチが生かされているのを見て、非常に感慨深かったんです。

稲垣　プロセスを自分で組み立てて、探究に必要な技能も自然と活用できているということでしょうか。

庭井　情報を集めたり使ったりするスキルが、「調べ学習」のために使わ

慶應義塾普通部の図書館

れたのではなくて、好きなことを追求するために活用されているということですね。彼が演じた落語のＤＶＤを見るとすごいんですよ。音楽付きで登場してきて（笑）、着物もつくってもらって、座布団に座って。「完成版まで30テイクやりました」と言ってました。家族も落語の練習に何十回となくつきあってくれたそうです。ものを食べるシーンで飼い犬が駆け寄ってきたこともあったって（笑）。

稲垣　最後に、図書館は、探究する生徒たちにとってどんな場所でしょうか。

庭井　探究をサポートする図書館というのは、自分のなかでも新しく出てきたテーマです。資料提供だけじゃなく、どういうサポートができるのかと考えると、必要なスキルを教えること、図書館を静かに本を読むだけじゃない、いろいろな刺激を受けられるような場にすること。そして、探究が始まったら、教科の先生のように内容についてはアドバイスできないかもしれないけど、「この資料を使ったら？」「こういう方法もあるよ」と取り組み方をアドバイスしつつ見守る。図書館が資料収集の場だけではない存在になったらいいなと思いますね。

自分の美学を追い続ける

語り手…　川口（かわぐち）　知美（ともみ）　舞台衣装家

聞き手…　稲垣　忠

舞台衣装家の仕事

稲垣　川口さんのプロフィールを簡単に教えてください。

川口　エスモード・パリで服飾デザインとパターン（型紙製作）を学んで１９９８年に帰国後、東京の舞台衣装の製作チームでパタンナーとして経験を積みました。２００６年に独立してからはデザイナー兼パタンナーです。ほかに、服飾専門学校や大学での講義、地域のワークショップなど、仕事を通して得た経験やスキルを伝える役割も積極的に引き受けるようにしています。２年前に故郷の金沢に拠点を移しました。

稲垣　舞台衣装家のお仕事ってどんなことをするんですか。本番までの流れを簡単に教えてもらえますか。

川口　上演の１年ほど前に演出家や上演団体から声がかかります。その時点では上演日とタイトルくらいしか決まっていないので、演出家にどんな方向で進んでいるか探りを入れながら、自分でも作品についてリサーチを始めます。その後、稽古を見たり、演出家や美術や照明の担当者と打ち合わせをしたりしながら、演出の方向性がある程度見えたところで衣装のデザイン案をつくります。演出家のＯＫが出たら衣装を仮縫いして、役者のサイズに合っているかなどを確認し、その後、仕上げた衣装を通し稽古で身につけてもらって不具合があれば調整します。本番３日前くらいに劇場で照明や音響、舞台設営など本番と同じ状態にしてチェック。それで問題がなければ、衣装を上演団体に引き渡します。その後の※ゲネプロや本番にも立ち会い、衣装を洗濯したり、破損したところを直したりします。

撮影：劉成吉

仕事のなかでの探究

稲垣　デザインはどんなふうに考えるんですか。

川口　作品の世界にふさわしい形はなんだろうって探っていきます。リサーチで集めた情報と、自分の引き出しにある知識やスキル、記憶、感性などを、取捨選択したり、組み合わせたりしながら形に表していきます。

稲垣　リサーチはどんなことをされるんですか。

川口　時代背景などの基本情報だけでなく、過去の公演の写真を見て、その作品がこれまでどうやって表現されてきたか、観客にどういうふうに受けとめられてきたかも調べます。そうすると、こういう形にすると観る人はこんなふうに認識するんだなっていう型が見えてきます。

稲垣　集めた情報はどうするんですか。

川口　情報を入れ込んだらパンクしそうになるんですよね。そんなときは、「いったん忘れる」んです。見ちゃった分、どうしてもなぞっちゃう。自分の感覚にもどしていかないと、自分で選び取ることができなくなる。手放したあとに、ひょいとデザインのアイディアが浮かんだりするんです。そこでつかみ取ったアイディアに最初から確信がもてるときは、針の穴に糸が通るようにピーンと筋が通ったような感じがします。だから、自信をもって打ち合わせにいきます！ 不安なときは、とりあえず2、3個案をつくって演出家に意見を聞いてみます。

稲垣　なるほどー。そのアイディアが衣装の形になって上演されたときに、衣装の良し悪しはどう判断するんですか。

川口　実は、衣装だけを見ることはないんです。衣装も含めいろんな要

素で創りあげられている舞台作品としてどうだったかということを見ます。気になるのは、まず、「山が立っていたかどうか」。そして、「バランスが保たれていたか」です。

稲垣　山が立っている？

川口　ほかの団体の上演とは違う個性を際立って出せているか、ということでしょうか。観客がいろんな感情をもったり、考えたり、揺さぶられたり、後々まで余韻を感じたりするような舞台をつくりたいと思っています。そういう舞台になるときって、スタッフがそれぞれに研ぎ澄ました美学が、中途半端に統一されることなくそのまま舞台上に表現されていたか、あるいは、演出家のプランを極限まで磨きあげるというひとつの方向に向かって全員が専門性を出しきっているか、なんですよね。

稲垣　バランスというのはなんでしょう？

川口　観客が入り込む余地が保たれていたかということなんですけど。ちょっと難しいですよね。

以前、仕事の方向性に迷っていた時期に、友人のダンサーに勧められて「安藤洋子×W・フォーサイス」というコンテンポラリーダンスの公演を観ました。そこで一人ひとりのダンサーが個としての強い存在感を表現しながらも、互いに強く意識を向け合っている関係性に、一観客としてとても惹かれたんです。

わたしは、子どもの頃にいじめられた経験から、集団のなかにいると萎縮してしまうところがあったんですが、人としっかり関わりながら強く輝く個のあり方の答えを見つけたような気がしました。わたしがつくりたいのは、こんなふうに、観客が作品に没頭しながらも、自分自身に引きつけていろいろ感じたり、自由に想いをめぐらせたりすることができる舞台だったんだと思いました。

その公演でダンサーが着ていたのは、シンプルなシャツにパンツとか、花柄のワンピースなど、ごく普通の服でした。役者を飾りたてたり、デザイナーが自己主張をするためのきらびやかな衣装ではなく、身体表現をよりよく伝え、観る側に自由に感じたり考えたりする余地を残す衣装でした。もちろん、衣装だけでなく、音響とか照明、セリフの息づかい、身体や間の使い方など、舞台を構成するすべてが、観る人が入り込める余白を残すために絶妙なバランスを保っていました。それ以来、舞台上にいろいろ盛り込まれすぎていると思うときは、衣装で引き算をしてバランスをとるということを心がけるようになりました。

撮影　前 伊知郎

稲垣　山が立っていたか、バランスが保たれていたかをどう確かめますか。

川口　上演団体の個性が際立ち、観客の印象が分かれたり、いろいろ考えたりする余地のある作品に仕上がっていたら、反響もそれなりにあります。そうすると、再演の可能性が出てきます。できるだけ長く上演されて、たくさんの人に観てもらうことが評価のひとつでしょうか。

観た方からの感想ももらいますが、感じたことが即興的に返ってくることが多いので、大事ではあるけど、それだけが評価じゃない。結果として受けとめるけど、自分はそこで終わらせちゃいけないぞと思ってます。

稲垣　そこで終わらせないとしたら、その次になにをされるんですか。

川口　できた衣装への反省って、実はあんまりしません(笑)。でも、自分の仕事のやり方は反省します。大人数が関わっているので、自分が考え抜き、完成度をぎりぎりまで高めて出した衣装が、意図を理解されないままどんどん変わってしまうことがあります。そういうときはすごく反省する。衣装プランといっしょに説明文をつけておけばよかったとか、変更できないところをちゃんと言っておけばよかったとか、どちらに決定権があるかを確認しておくべきだったとか。

探究を支えるチカラ

稲垣　仕事を進めていく上で大切だと思う力ってありますか。

川口　ことばでは表現されない世界を捉える力でしょうか。例えば、アーティストと仕事をするとき、かれら

撮影：劉成吉

が表現しようとしていることは必ずしも既存のことばで言い表せないこともあります。でも、そういうところに本質をつくようなアイディアがあったりするんですよね。

さらに言うと、セリフで語られることばだけでなく、役者の声の響きや圧、身体からにじみでるものなどすべてをひっくるめた場を、少し引いたところから構図のように捉えて見る力でしょうか。観客が舞台空間をどう見て何を感じるかを想像するのに必要な力です。

稲垣　ほかにも必要な力はありますか。

川口　自分の作品をことばで説明する力ですね。衣装をつくりあげたら、そこまでの自分のプロセスを振り返っていったん言語化します。これは、人に伝えるというより自分のための作業です。そのなかから、演出家とか舞台関係者に納得してもらえることばを選んで、衣装の制作意図を説明したりします。

稲垣　衣装をつくりだす表現から、人に伝えるための表現になってくるんですね。相手がことばで語っていないことも読み取ることと、創作のプロセスをことばに置き換えていくこと。広い意味での伝え合う力といえそうです。

川口さんの美学

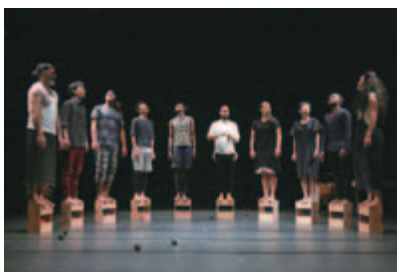
稲垣　最後に、川口さんが仕事のなかで大事にされていることをお聞かせください。

川口　さっきお話ししたこととつながるんですけど、自分のなかでデザイナーを不在にしておくということです。デザイナーとしての自分を主張するのではなく、まず脚本家や舞台制作に関わる人たちの価値観を受けとめて、それを自分のフィルターを通して形にして出すのがわたしの仕事だと思っています。

衣装って、人と関わらないと生きられないんです。どんな人が着るかだけでなく、動き方や着替えにかかる時間や役者がかく汗にも影響されます。そういう現実的な問題とも向き合わなくてはいけないので、イメージ通りにはいかないことも多くて。プロとして衣装の完成度をぎりぎりまで高めることに全力を傾けながらも、それをいろんな人の価値観のなかにさらしたり、現実との折り合いをつけたりする。あいまいなところにいる自分をずっと受けとめ続けているみたいな感じですよ。でもそれが、おもしろいんですよね。

※本番同様に客入れからアンコールまでを通しで行うこと。

『LR「里亞王〜リア〜」』公演に向けての打ち合わせ



川口さんが衣装を担当した
『PACIFIKMELTINGPOT』（2015年初演）
撮影：João Garcia
※2018年、フランスで12公演ツアー予定。
http://www.cornucopiae.net/actions/page-10-fr.php

ロシアの人びとの暮らしにふれる

2015年度から開始した日露交流プログラムの2年度めは、高校のロシア語教師とロシア語を学ぶ生徒、計19名をロシアのモスクワとシベリア地方にあるノボシビルスクに9日間派遣しました。日本からノボシビルスクへの直行便はなく、モスクワで国内線に乗り換えて約5時間。短期間の日程で2都市の訪問はタイトなスケジュールでしたが、モスクワだけではないロシアを見てもらうためでした。そして、日本語学習者との交流を含め、さまざまな学校や機関への訪問、ホームステイを盛り込みました。

ノボシビルスクで訪れた音楽学校では伝統楽器や民族舞踊を体験しました。この学校は一般の学校とは違い、生徒たちが自分の興味関心にあわせて放課後に通う学校です。音楽のほかに体育や美術などに特化したものもあります。また理系を重視しているノボシビルスク工科大学附属ITリッツェイでは体育や芸術などの授業を受けたり、日本語の授業を見学したりしました。日本側の教師は日本語を履修していない生徒を対象に、動物の鳴き声や数え方を使った手遊び、空手の授業などを行いました。2泊のホームステイでは、ダーチャに連れて行ってもらった生徒もいました。ダーチャは初夏から秋まで毎週末を多くのロシア人が過ごす菜園つきのセカンドハウスです。モスクワでは、小学校を訪問し小学生と話をしたり、ロシア正教会では手作りのお菓子でもてなされたりするなど、多くの貴重な体験をしました。

教師のプログラムとして、互いのことばを教える日露教師の合同研修をモスクワで実施しました。今回の交流に向け、事前に日露の教師はペアになり、学習活動を準備しました。そして、高等経済学院附属高校の生徒と日本から派遣した高校生の合同模擬授業を行いました。

こうした交流は日本語学習への動機づけにもつながり、ノボシビルスクの学校から、交流前と比べて日本語履修希望者が倍増したという報告が届きました。

2017年度はロシアから日本語教師と生徒を招聘し、交流を深める予定です。

友好関係を続けるために

イリーナ・プーリク
ノボシビルスク市シベリア・北海道文化センター
副センター長

当センターは、姉妹都市である札幌市との交流を通して、日露友好関係の発展をめざしています。友好関係を築くには、まず相手に興味をもち、話をして理解しあい、一緒に何かをしていくことが必要です。そしていったんできた友好関係を続けることも大切だと思います。高校生がロシア語と日本語を互いに学び、ことばを通して文化を学び、気持ちを伝え合って、共同で何か楽しくやることで、友情は続くだろうと思い、当センターはTJFの日露交流事業に参加することを決めました。

ノボシビルスクを訪れる日本の高校生たちには、とにかくロシアの文化を体験し、ロシア人の心の広さと優しさも感じてもらいたいと思いました。そこで、ロシアの家庭やライフスタイルにふれられるホームステイ、情緒豊かな調べで安らぐ音を奏でる民族楽器の体験、そして、ロシアの代表的な料理であるピロシキを食べながら、伝統的な遊びも楽しめるピロシキパーティを企画したのです。

今回の交流での大きな成果はロシア語教師と日本語教師のネットワークができたことです。新しい交流プロジェクトに向けて情報交換が続き、両国の高校生に新たな友情が築けることを期待しています。

見た
ふれた
笑った

モスクワ

9/21 ～ 9/23

@ 第 1223 番学校

玄関でパンと塩で客をもてなすのがロシアの伝統

@ ロシア正教会

手作りのお菓子とお茶でもてなされた

@ 高等経済学院

日露の合同教師研修で行われた模擬授業を受ける日露の生徒たち

@モスクワ市内

お土産のいちばん人気はマトリョーシカ

ノボシビルスク

9/17 ～ 9/20

@ ノボシビルスク工科大学附属 IT リツェイ

演劇の授業では「大きなかぶ」を実演し、体育の授業では春のお祭りでおなじみの踊りを体験した

@ オペラ・バレエ劇場

舞台に上がったり、道具倉庫を見学したりした

@ 音楽学校

ロシアの伝統的な楽器を体験

さまざまな伝統楽器

ロシアの踊りを一緒に踊った

@ シベリア北海道文化センター

ピロシキパーティでは、地元の楽団による歌や踊りが披露されるなか、民族衣装を試着したり、何種類ものピロシキとサモワールでいれたお茶を楽しんだ

〔事業データ〕

高校のロシア語教師と高校生のロシア派遣
期間：9/16（金）～9/24（土）、場所：ロシア・ノボシビルスク、モスクワ、助成：（一社）尚友倶楽部、実施協力：ノボシビルスク市シベリア・北海道文化センター、高等経済学院（モスクワ市）、国際交流基金モスクワ日本文化センター、輸送協力：JAPAN AIRLINES、企画協力：JALPAK、旅行取扱：（株）Jトラベルセンター、参加者：高校のロシア語教師7名、ロシア語学習者12名

日露教師合同研修
期間：9/21（水）～22（木）、場所：モスクワ、講師：横井幸子・大阪大学准教授、コーディネーター：大田美紀・国際交流基金モスクワ日本文化センター日本語教育専門家、ストリジャック・ウリアナ・高等経済学院准教授、参加者：互いのことばを教える日露の教師12名

留学生が気になる人にインタビュー

2016年8月に、学生がさまざまな人にインタビューして発信するウェブサイト「ときめき取材記」をオープンしました。学生が興味のあることをテーマに選び、そのテーマに関連する人に考えや生き方をインタビューして、まとめた記事を掲載するというものです。

2016年度、記事づくりに取り組んだのは、武蔵野美術大学で「日本事情」を受講した留学生21人。選んだテーマは、「銭湯」と「キモカワ」。日本の銭湯文化を知りたい、「キモイ」と「カワイイ」という正反対のことばがひとつになった「キモカワ」が人気を集める秘密を解き明かしたいと留学生たちは思ったのです。「銭湯」と「キモカワ」に関連する人たち3人ずつにインタビューし、考え方や生き方など内面に迫りました。

人を通した文化発信

TJFは、くりっくにっぽんウェブサイトの「My Way Your Way」コーナーで、日本で話題になっていることをテーマとして取り上げ、そのテーマに取り組む複数の人にインタビューしています。ひとつのテーマをさまざまな角度から見て、人を通して文化を紹介することがねらいです。

こうした発信を留学生が行うのが「ときめき取材記」です。留学生ならではの視点でテーマや人を選び、インタビューすることで、TJFの日本発信に新たな一面が加わりました。また、学生はテーマ選びからインタビュー、記事作成の過程で、日本で気になっている文化を多面的に見たり、多様な文化を感じたり、さらに、日常生活ではなかなか話すことのない生き方についてインタビューしたことで、さまざまなことに気づいたようです。

2017年度は国内の複数の大学や日本語学校、ニュージーランドの大学などでも「ときめき取材記」に取り組んでいます。

社会・文化をつくる
—「ときめき取材記」の試み

三代（みよ） 純平（じゅんぺい） 武蔵野美術大学准教授

2016年度より「くりっくにっぽん」の学生版、「ときめき取材記」に取り組んでいます。個人の生き方から日本文化にアプローチするという「くりっくにっぽん」の理念に共感し、インタビューを取り入れた授業実践についてTJFに相談したことをきっかけに、「ときめき取材記」プロジェクトは動き出しました。

今、私が感じている「ときめき取材記」プロジェクトの可能性は、大きく二つあります。一つは、学習者が主体的に文化をつくるということです。従来のインタビュー学習は、聴くことに重きが置かれていました。無論、聴くことは非常に重要です。しかし、プロジェクトでは、聴いたことをウェブサイトで発信することが求められます。自分たちの感じた文化を発信し、新しい文化の創造に寄与することができる。これが、「ときめき取材記」のもっともおもしろいところであり、これからさらに追求していかなければならないところでもあります。

もう一つは、「ときめき取材記」という場が多くのつながりを生むということです。インタビューに応じてくれた方々、記事を執筆する学生、そして読者をつないでくれるのはもちろんですが、それに加え、今回、記事を見て、多くの教師から問い合わせがありました。自身の実践に「ときめき取材記」を取り入れたいと考えている方々です。

教師間の連携を通じて、「ときめき取材記」はさらに充実した学びの場に発展していくでしょう。これからも「ときめき取材記」がさまざまなつながりを生み、一人ひとりの小さな声を掬（すく）い上げながら、新しい文化を描いていくことになると思っています。

「ときめき取材記」はこちらから▼

「キモカワ」は、キモイの？ カワイイの？

「キモカワ」というのは「気持ち悪いけど可愛い」の略語である。1990年頃から、個性を区別しようとする若者に使われ始めたが、時代によって「キモカワ」の概念やトレンドも変わっていき、今もよく耳にする。「気持ち悪い」と「可愛い」、この完全に反対になっている二つのことばを一つに混ぜて使うことに驚いた。その「キモカワ」の正体を探るため3人の「キモカワ」エキスパートにインタビューした。

自分の「美しい」を発見しよう！
（長谷川義太郎、元文化屋雑貨店オーナー）

自分のやりたいことを貫徹する
（森拓馬、イラストレーター・グラフィックデザイナー）

AC 部だから作る
（安達亨、板倉俊介、デザイングループ AC 部）

銭湯の魅力ってなんだ？

私たち留学生は日本に初めて来たとき、毎日お風呂に入る日本人を見て、お風呂や銭湯の文化に驚いた。外国にはない銭湯について日本人はどのように考えているのか興味をもった。

銭湯はその人の人生にとってどんな意味があるのか、銭湯設計士や銭湯芸術家、銭湯をこよなく愛する大学生の3人にインタビューした。

せんぱいのトライ
（今井健太郎、銭湯設計士）

私、ウエハラ、銭湯に活力を与える
（ウエハラヨシハル、銭湯芸術家）

人と人をつなぐ銭湯
（山田尚史、東京外国語大学銭湯同好会会長）

学生の感想

- 日本に住んでいても周りに興味をもたず、空気の流れのまま住んできたことに気づきました。「そういえばそんな違いがあったんだ」とか「これは違うことだけじゃなくて文化の一部分だった」とかを考えることができました。
- いろんな国から来ていた友だちと一緒にインタビューを準備して、国によって違う考え方をもっていることに気づき、がんばってみんなの意見をなるべく聞き、合わせるようにしました。
- あまり深く考えてなかったが、キモカワという意味自体が人によって解釈も違うし、いい意味に捉えてない人もいたので大変だった。
- 美大生として鋭い観察力をもっていると自負していたがまったくそうではなかった。本気で銭湯のことを思い、心配している山田さんのことを思うと恥ずかしくて仕方なかった。自分はそこまでまじめになったことがあるのか。行動を起こし何かを変えようとしたことがあるのか。……山田さんは、何かを変えたいなら自分で動くしかないということを私に教えてくれた。
- 文化を理解するには直接人に会ってみることが大事だと思う。
- 世界のどこでも同じく、取り上げる対象を尊重し、インタビューする前にちゃんとその人のことを調べることだ。長谷川さんにほかの国と比べて日本の文化が違うところは何かを聞いたら、彼は日本はただの普通の国だと答えてくれた。たくさん共感したのは、同じ人間だから、共通の感覚や気持ちがあるということだ。

楽しかったとき、つらかったとき

第5回を迎えた日韓の中高生交流プログラム「Seoulでダンス・ダンス・ダンス」。日韓あわせて36名の中高生が4泊5日の合宿生活を送りながら、日韓混成の6グループに分かれK-popダンスを練習し、最終日に披露します。今回はダンスを発表する前に、「キヨミJK」「EIGHTEEN」「B4G2」「ダンバラム」「キレイキレイ」「H・i・J・K」のグループがそれぞれ4日間を振り返り、どんなことが楽しかったのか、どんなときにつらかったのか、何を感じたのか、5枚の写真を交えて「私たちの物語」として日韓2言語で紹介しました。

SEOUL 韓国の中高校生と 댄스 댄스 댄스

◀動画はこちらから

顔合わせ …1日目

キヨミ JK

最初に会ったときに撮った写真です。期待でいっぱいでした。

처음 만났던 날의 사진인데요, 앞으로의 5일간이 정말 기대되던 순간이었습니다.

練習 …2日目

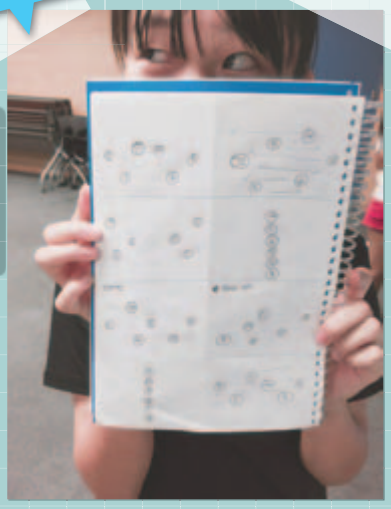
EIGHTEEN

あんまり韓国語がしゃべれなくて、けっこう苦労しました。

서로 의견이 맞지 않아 옥신각신했지만, 서로 상대방을 배려한다는 생각을 가지고 같이 춤을 추는 과정을 통해 친해지게 되었습니다.

練習 …3日目

ダンバラム



隊形移動が難しいので、ノートに書いて練習しました。

이곡은 대형이 매우 복잡해서 저희가 연습할 때 노트에 적어가면서 열심히 연습했습니다.

キレイキレイ

自費でおそろいのブレスレットを買って、深い友情をつくりました。

팀 멤버끼리 깊은 우정의 증표로 팔찌를 맞췄어요.

生徒の感想

- SNS でもふだん誰かと会うときも、ことばが必要で、そのことばから後の関係が築かれていくので、外国語を学ぶことは良いことだと思います。（日本側中３女子）
- 日本語はそこまで得意ではないですが、わかるすべての単語を振り絞り、勇気を出して日本の子たちに声をかけました。また、自分の意見を言う勇気もでました。自分の意見を話し、自分の意見と異なる意見が出たときは折衷案を考え結論を導き出す力がついたと思います。（韓国側高２女子）
- このプログラムで私が一番変わった点は、偏見が消えたことです。そして「やっぱり人は直接会って経験してこそわかる、本を通した間接的な経験だけで判断するのはよくない」と思いました。（韓国側高２男子）
- 興味のあることや関心があるものに対してもっと積極的にふれてみようと思います。何事にもチャレンジしてみる気持ちをこれからも大切にしたいです。（日本側高２女子）

練習

…３日目

H.i.J.K

ダンスがぴったりあったときの写真です。感動的なシーンです。

연습을 진짜 열심히 해서 동작이 딱 맞는 모습입니다. 이 때 감동을 느꼈습니다.

ダンス衣装の買いもの

…３日目

B4G2

私たちの活動のなかでいちばん楽しかった瞬間の写真です。ホンデに衣装を買いに行って、あとおいしいものを食べました。

이 사진은 저희가 즐거웠던 순간을 찍은 사진인데요, 홍대에 쇼핑하러 가던 길에 찍은 사진입니다.

発表会

…４日目

〔事業データ〕

日韓のことばを学ぶ中高生交流プログラム2016
「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」
期間：8/4(木)～8(月)、場所：韓国･ソウル、主催：(財)秀林文化財団、TJF、実施：秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会、TJF、助成：(公財)双日国際交流財団、国際交流基金ソウル日本文化センター、協力：高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、輸送協力：ANA、旅行取扱：ジェイエッチシー(株)、参加者：韓国語を学ぶ日本の中高生18名、日本語を学ぶ韓国の中高生18名

番外編

日韓 お菓子対決!?

自分のお気に入りのお菓子を持ち寄って、どれがいちばんおいしいか食べ比べ。あるグループで人気を集めたのは「きなこ餅」！

日韓の校長交流

校長から始まる学校間交流

日韓で互いのことばの教育や学校間交流を促進するとき、その鍵を握っているのは管理職であることから、2015年度に日韓校長交流プログラムを始めました。2016年度は、東京、神奈川、千葉、埼玉、広島の高校から校長など11名を8月に3泊4日で韓国に派遣しました。ソウルで実施した日韓校長交流会に、韓国側は日本語教育を実施している中学・高校の校長、日本語教師計19名が参加し、互いの教育に対する考え方などを話しながら、日韓の学校が交流する意義やその可能性について意見交換しました。

留学生と大学での様子や目標などについて話をした

11月には、TJFと国際フレンドシップ協会が共催で韓国の校長と生徒を日本に招聘し、滞在中に交流会を実施しました。ここに参加した校長のほとんどは、ソウルでの交流会に参加していたため、多くの校長が2度めの交流となりました。対話を重ねることで、人柄、教育や交流に対する思いがよりわかるようになり、結果として神奈川県立弥栄（やえい）高等学校とドンタンチュンアン高等学校（京畿道）、東京都立日比谷高等学校とミチュホル外国語高等学校（仁川市）が姉妹校協定を締結し、神田女学園中学校高等学校とソウル女子高等学校が協定の締結に向けた準備を始めています。

生徒の訪韓を視野に

学校間交流が始まると、日本の生

韓国の日本語教育実施校の校長、教師と意見交換を行った

徒たちが韓国を訪問する機会も出てきます。そのときの参考にしてもらえるよう、ソウルでは日本語教育実施校で教師や高校生と交流したり、日本からソウルの大学に留学している学生と話をする機会を設けたり、宿泊先も高校生が泊まることを想定してユースホステルを選びました。

今後は日韓の校長交流の場をつくることに加え、これがきっかけで始まった学校間交流が継続、発展するためのフォローアップをしていきます。

韓国の校長の出番！

11月にソウル、仁川、京畿道、全羅南道から10名の校長先生を招聘したプログラムでは、「ガイドブックにない日本を発見する」をテーマにしました。多様なカリキュラムが選択できる総合高校、グローバル化に向けた取り組みを積極的に行っている私立の中高一貫校、クラブ活動に力を入れている公立高校など、さまざまなタイプの学校を訪問してもらったほか、広島では昔ながらの手法を守り続ける造り酒屋を訪問し、地方の食文化の魅力にもふれてもらいました。

過密スケジュールでしたが、「教育関係者と生活指導、外国語教育、国際交流等について話し合い、両国の関心事や悩みがわかって有益だった」という声があがったように、校長が共通点を知り、日本に対する理解を深めたことは大きな成果でした。さらに、校長と一緒に招聘した生徒たちが、自分で発見した日本を数枚の写真とキャプションにまとめた作品を学内で発表したり、生徒の記事を広報誌に掲載するなど、ほかの生徒と共有する機会を設けてもらったことで、より多くの生徒に日本のことを伝えることができました。

自分たちが発見した日本について紹介する生徒

生徒がまとめた記事

海外に出て得られること

武内（たけうち）　彰（あきら）
東京都立日比谷高等学校　校長

左が武内校長

日韓校長交流プログラムに参加したことがきっかけとなり、今年3月に韓国のミチュホル外国語高等学校と姉妹校提携を結びました。昨年8月、初めての訪韓で目の当たりにしたのは、高校生たちの学びに対する姿勢です。韓国が競争社会だということは知っていましたが、私たちの生徒たちとは全く違っていました。直に話をして日比谷の生徒に何かを感じ取ってほしいと思いました。

また、本校は一昨年4月に東京グローバル10に指定され、ニュージーランドの高校と姉妹校締結をしましたが、英語圏だけではなく、アジアとも接点をもつべきだと思っていたこともあります。さらに、外に目を向けることで、自分が今いる世界は狭いことに気づいてほしいと思っています。

毎年生徒を引率して、アメリカのハーバードケネディスクールを訪れていますが、生徒たちは自分の高校が日本では名が知られていても、世界に出て行けば、誰にも知られていないことに気づくと同時に、世界で活躍する人たちのことを知り、自分の人生観や価値観が大きく変わります。海外との交流での体験は必ず将来につながっていくと思っています。

〔事業データ〕

日韓の校長交流プログラム（派遣）
期間：8/6（土）～8/9（火）、場所：韓国・ソウル、主催：東京韓国教育院、神奈川韓国綜合教育院、TJF、輸送協力：ANA、参加者：11名
※8/8（月）に、日韓校長及び教師交流会を国際交流基金ソウル日本文化センターと共催した。

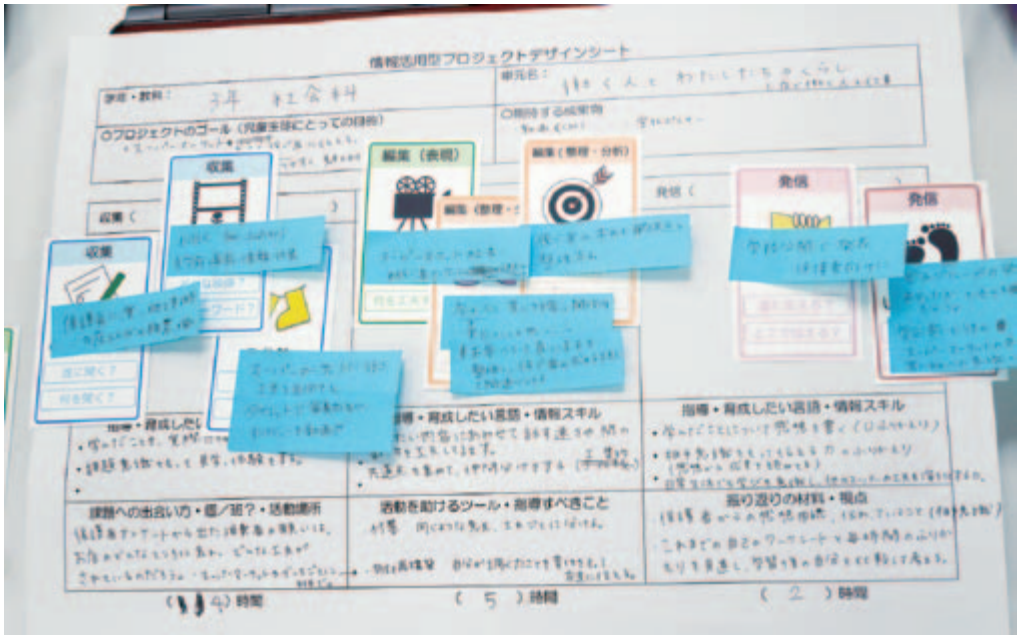
JENESYS2016 韓国高校校長および高校生招へい事業
期間：（校長）11/23（水）～11/29（火）、（高校生）11/23（水）～12/1（木）、場所：東京、神奈川、広島、主催：（一社）国際フレンドシップ協会、TJF、輸送協力：ANA、参加者：韓国の日本語教育実施校の校長など10名、生徒22名、引率教師2名、計34名

プロジェクト学習・探究学習のワークショップ

稲垣忠・東北学院大学教授を講師に、プロジェクト学習や探究学習について理解を深め、実践力を高めるワークショップを2015年度から実施しています。2016年度は、「探究する学びをデザインしよう――プロジェクト学習でことばと情報をフル活用する単元づくり」と、「プロジェクト学習、探究学習のリフレクション&ブラッシュアップ」を東京で開催しました。

どちらも、「子どもたちが主体的に情報を集め、吟味して、じっくり考え編集、創造し、切実感をもって他者と伝えあう」という情報活用型プロジェクト学習の考え方がベースになっています。

前者は実践経験の有無にかかわらず参加できる内容で、全国から30人の先生方が参加しました。児童・生徒にとってのゴールの設定から始まり、収集・編集・発信の3つのステップを意識した学習活動づくり、学びの質を見極めるためのルーブリック



収集・編集・発信の３つのステップを、インタビュー、観察・実験、集約、関連づけ、プレゼンテーション、発表、ふりかえりなど、21 の具体的な学習活動に分けたカードを使って、単元全体を見通しながら具体的な活動の流れを考える。

「探究する学びをデザインしよう」では、「プロジェクトのゴールと成果物の設定」「探究プロセスのシミュレーション」「思考 x 表現ルーブリックの設計」「学習活動の詳細化」という４つの演習がバランスよく組み込まれ、一日でプロジェクト型の単元が設計できるようにデザインされている。稲垣先生はグループをまわりながら、個別の質問に答える。

＊情報活用型プロジェクト学習の詳細は、稲垣先生のホームページをご覧ください。http://ina-lab.net/special/joker/pbl

づくりなどに取り組みました。

後者は、稲垣先生が個別にフィードバックできるよう、実践経験者を5人に限定して実施しました。まず、プロジェクト学習デザインの点検シートを使いながら、参加者それぞれが自分の実践を振り返りました。その結果をもとに、「生徒の振り返りを深める質疑応答とは」「学習者が自分の成長を実感するには?」の2点に課題をしぼり、グループに分かれてアイディアをじっくり考えました。

2017年度も同様のワークショップを実施する予定です。ほかの教員向け研修のお知らせも含めて、メルマガやFacebookでご案内します。

参加者からのコメント

- 頭のなかでイメージしてきたことを整理しながら書き出すことで、あいまいにしていた部分に気づき、組み立てなおすことができた。
- 子どもたちがやってみたい、意味があると感じられるゴールや活動を考えることが大事だと気づいた。
- 学習活動カードが扱いやすく、全体の構成を考えやすかった。
- ワークショップの構成、進め方、ツールの使い方が参考になった。1日でこういうふうにプロジェクト学習の計画をつくれるのだとわかった。
- ルーブリックの記述の良し悪し、ルーブリックの質をどう上げるかについてのワークショップもあるといい。

授業の軌道修正のヒントになった

戸上（とがみ）　和正（かずまさ）
東京大学教育学部附属中等教育学校教諭（英語）

前年度の情報活用型プロジェクト学習のワークショップで学んだことを生かしながら外国事情の授業でプロジェクト学習に1学期間取り組んだあと、リフレクション&ブラッシュアップのワークショップに参加しました。学習のステップごとに振り返りをし、自分の課題を明確にしてから次に進むということを生徒と共有して授業を進めていましたが、必ずしもピンときていない生徒がいることを感じていました。

ワークショップでほかの先生方のお話をうかがううちに、「説明すれば生徒はわかって、ついてきてくれる」と無意識に思っていたことに気づきました。生徒の学習の出発点も理解度もさまざまなのに、かれらに寄り添うような振り返りができていませんでした。今は、生徒を教師についてこさせるのではなく、様子を見ながら、こちらから個々の生徒の状況にあわせて、フレキシブルにフィードバックをしたり、振り返りを促したりするようにしています。

「プロジェクト学習、探究学習のリフレクション＆ブラッシュアップ」でグループの課題について議論を深める。

〔事業データ〕

●稲垣忠・東北学院大学教授のワークショップ
・「プロジェクト学習、探究学習のリフレクション&ブラッシュアップ」
期日：8/25(木)、場所：東京、参加者：小中高校の教員5名
・「探究する学びをデザインしよう ── プロジェクト学習でことばと情報をフル活用する単元づくり」
期日：3/26(日)、場所：東京、参加者：小中高校の教員約30名

●當作靖彦・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授の研修
・レクチャー「評価のパラダイムシフト：講義中心の教育からアクティブラーニング中心の教育への変化は評価をどのように変えたか」・ワークショップ「パフォーマンス評価、オーセンティック評価：アクティブラーニングの効果的な評価のデザインと実施方法」
【7/31(日)】場所：大阪、参加者：小中高校大学の教員約100名、共催：国際教育活動ネットワークREX-NET
【11/26(土)】場所：北海道、参加者：小中高校大学の教員約90名、後援：札幌市教育委員会、北海道教育委員会、協力：高等学校中国語教育研究会北海道支部、国際教育活動ネットワークREX-NET、実用英語教育学会(SPELT)、北海道高等学校英語教育研究会
・レクチャー「評価のパラダイムシフト：学習結果を見るテストから学習を促進するテストへ」、ワークショップ：「言語教育におけるパフォーマンス評価：その効果的なデザインと実施方法」
期日：6/6(月)、場所：沖縄、参加者：沖縄県立高校および中学校の外国語教員90名、主催：沖縄県教育委員会、共催：TJF

そのほか、沖縄県立向陽高等学校2・3年生向け講演会、沖縄県立普天間高等学校創立70周年記念講演会、北海道滝川西高等学校全校生徒向け講演会、大阪府教育センター主催の校長・教頭向けおよび指導教諭向けの研修、豊中市教育委員会主催の教頭向けおよび教員向け研修、北海道高等学校英語教育研究会第10回セミナー、北海道（一社）滝川国際交流協会主催・滝川市共催の市民向け講演会での講義や講演の実施に協力した。

●第3回小中高校教育関係者向けCMづくりワークショップ
期日：9/4（日）・10/2（日）、場所：東京、講師：近藤祐見・（株）電通CMプランナー、参加者：小中高校の教員6名

広がる「めやす」研修

TJFは2012年に「外国語学習のめやす」(以下、「めやす」)を発表し、外国語教育の新たな役割として、多様なことばや文化的背景をもつ人びとが共生する社会をつくり、21世紀を生きていく力を育てることを提唱しました。さまざまな言語で活用してもらうために2013年度から3年度にわたって、中・韓・独・仏・西・露・英・日、8言語の高校・大学の教師を対象とする研修を行いました。そして、55人の「めやす」マスターが誕生しました。

マスターはそれぞれの言語教育の現場で、「めやす」をより広く共有するためにワークショップやセミナー、研修を企画、実施しています。複数のマスターが企画し、言語を横断して開かれることも多くあります。

2016年度は従来の研修に加え、日本語教育専攻の大学院生を対象とする合宿型の研修が実施されたり、大学教員の教育能力を高めるための研修で「めやす」が取り上げられたりしました。

2017年度は、台湾や南米でのワークショップや、オンライン会議システムを使って日韓の会場を結んだワークショップなどが行われます。TJFは引き続きこれらに協力していきます。

海外でも「めやす」が有効な理由

阪上(さかうえ)　彩子(あやこ)
関西学院大学講師

数年前ロシアで日本語教師対象のセミナーを行っているとき、参加者にこんな質問をされたことがあります。「日本語を勉強する意義がわからないと学生に言われたが、どう返答したらよかったでしょうか」と。確かに、その地域は日本から遠く、日系企業もないため、就職に役に立つわけではありません。文字を覚えたり、母語と違う文法のルールを勉強したりするうちに疲れて、最初には高かった学習意欲も下がってしまったのかもしれません。

そのとき私はあいまいに答えてしまったのですが、今は自信をもって答えることができます。「めやす」について話せばいいからです。「めやす」では外国語教育を人間教育の一環として捉え、グローバル社会を生き抜く力の育成をめざしています。日本語を学ぶことで日本語や日本文化だけではなく、自分の文化を再発見し、グローバル社会への理解も深めることができるから、日本語を学ぶことは必要なのです。

前述したような疑問をもつ教師の方々に向けて「めやす」のワークショップを昨年度はメキシコで開きました。2017年度は、台湾、南米などで実施する予定です。

仙台で実施された日本語教師を対象とする研修

〔事業データ〕

●マスターと共催した研修
「外国語学習のめやす韓国語教師研修」期日：9/3(土)、場所：東京、参加者：12名
「外国語学習のめやすセミナー」期日：2017/2/11(土)、場所：大阪、参加者：30名

そのほか、次の研修に協力
「大阪大学大学院言語文化研究科主催の日本語夏合宿における『めやす研修』」期日：8/18(木)、場所：大阪、**「日本語教育における『外国語学習のめやす』研修会」**期日：10/29(土)、場所：宮城、**「立命館アジア太平洋大学のFD研修としての『めやす』研修」**期日：11/19(土)、場所：大分

◀「外国語学習のめやす」の詳細はこちらから

隣語講座

もっと隣語を知ろう

さまざまな外国語を学びたいと思ってもなかなか機会のない中高生を対象に他機関と協力しながら隣語講座を開催しています。より多くの中高生に関心のある外国語を学んでもらうためには、保護者や教員など周りの大人の理解が重要です。そこで、保護者、教員、高校生を対象とする隣語講座「世界の言語と文化を知ろう」を実施しています。6月には毛丹青氏を講師に招きました。毛氏は「猫」や「漫画」「手帳」などのテーマで日本文化やライフスタイルを紹介している雑誌『知日』で創刊から長らく主筆を務めていました。『知日』は中国で販売数10万部という話題の雑誌です。

日本と中国の間にある「知の格差」を懸念しているという毛氏の講演のあと、保護者、教員、高校生というふだんなかなか話ができないグループで、「日中の人たちが互いの言語と文化を知ることで、どんなよいことが起きるか」といったトピックで意見を交換しました。毛氏はグループを回り、出された意見を興味深く見たり、参加者とことばを交わしたりしていました。

知中の勧め

毛丹青（まおたんせい）
神戸国際大学教授・作家

いま中国では日本文化専門誌がよく売れている。出版業界では日本に関わると売れるのだという。それだけのことだ。書店の外国文学のコーナーでは大体7割以上、日本の小説などがずらりと並んでいる。小職が携わってきた『知日』（2011年1月北京で創刊）と『在日本』（2016年4月上海で創刊）という二誌がある。日本文化専門誌づくりの原則は中国の読者のために日本の生の、そして直の実体験を提供することにある。中国人の編集部員がそれぞれ自分なりの視点で相手を観察している。中国文化の背景を参照する者、中国と日本以外の国の文化と比較する者、記事の端々から各人の興味の在り方が読み取れる。

日本語で「等身大」という言葉の意味は「あなたと同じだ」ということだ。日本のことを見続け、誇張せず蔑視せず賛美せず、文化の記録と叙述者として、今後の日本への理解を深めるための道をつくっている。これと同時に日本の若者たちにぜひ同じ視点で中国を知ってほしいと思っている。

『知日』や『在日本』（日本に滞在経験のある中国人による日本を紹介する雑誌）のページを繰りながら、参加者と意見交換をする毛氏

〔事業データ〕

世界の言語と文化を知ろう！（第2回）「日本が好きな中国を知ろう！」
期日：6/11（土）、場所：東京都立杉並総合高等学校、主催：東京都高等学校総合学科教育研究会、共催：TJF、協力：東京都立杉並総合高等学校PTA、助成：漢語橋基金、講師：毛丹青（神戸国際大学教授、作家）、参加者：33名

世界の言語と文化を知ろう！（第3回）「りんごをかじってみる」
期日：12/3（土）、場所：東京都立杉並総合高等学校、主催：東京都高等学校総合学科教育研究会、TJF、協力：東京都立杉並総合高等学校PTA、助成：漢語橋基金、東京韓国教育院、講師：張玥（東京大学大学院）、張河林（東京大学大学院）、参加者：36名

中高生のための韓国語講座 2016
期間：2016/4/9（土）～2017/3/4（土）（土曜日、全24回）、場所：駐日韓国文化院世宗学堂、主催：駐日韓国文化院世宗学堂、共催：駐日韓国大使館韓国文化院、TJF、講師：鄭賢熙（神奈川県立白山高等学校ほか講師）、参加者：25名

高校生のための隣語講座（韓国語）
期間：10/19（水）～2017/2/8（水）（全9回）、場所：横浜市立みなと総合高等学校、主催：横浜市立みなと総合高等学校多言語多文化共生理解部、TJF、講師：李迎日（東京外国語大学大学院）、金恵珍（東京外国語大学大学院）、アドバイザー：南潤珍（東京外国語大学准教授）、参加者：約10名

教科書「を」から教科書「で」へ

中国の中等教育では第二外国語として日本語を導入する学校が増え、学習者は11、783人に上ります（国際交流基金、2017）。しかし、その履修形態は必修クラブや課外活動などが多く、学習時間も隔週1回から週3回程度とさまざまです。TJFが大連教育学院と共同で制作した教材『好朋友』は第二外国語の授業での使用を想定していましたが、それでも担当する教師は自分のクラスにあわせて使い方を調整する必要があります。

そこで、「教科書『を』教えるから教科書『で』教える」をテーマにした日本語教師研修を2017年3月に上海で開催しました。中国各地から50名を超える日本語教師が参加しました。

参加者からは、「どのように教科書を使っていいかずっと迷っていましたが、今回の研修を通して少しわかるようになりました」「（以前は教科書をそのまま教えることしか考えていなかったが）教科書を『調理』できることを認識しました」といったコメントが寄せられました。

これからの日本語教育と『好朋友』

林洪（りんこう）
北京師範大学外国語言文学学院
日文系准教授

OECDが2003年に「キー・コンピテンシー」を打ち出したのをはじめ、多くの国と地域が絶えず変化する社会のニーズに対応できる力を育てることを教育目標として掲げてきました。中国では2016年9月に『中国学生発展核心素養』が発表されました。すべての面でバランスよく成長した人物となることを目標に、生徒が生涯にわたって自身の成長と社会の発展に寄与するために必要な品格、能力、価値観は何かを示しています。これを受け、現在『普通高中日語課程標準』（日本の学習指導要領に相当）の改訂が行われており、私も関わっています。

改訂にあたって、日本語を使った実践活動は以下の4つの要素を含み、3つのステップで進めていくことを提唱しています。4つの要素とは、活動の導入としてのテーマ、学習の軸となるシチュエーション、文脈のあるテクスト、そして日本語の使用の動機づけとなるタスクです。また、3つのステップとは、「知識を整理し理解する」「表現しコミュニケーションする」「探究し知識を構築する」です。

第二外国語としての日本語教材『好朋友』は、OECDの「キー・コンピテンシー」を参考にしつつ、『日語課程標準』を熟慮したうえで、ストーリー漫画を教材の中心においています。そして、各課のテーマに関連する漫画の一場面を選び、その場面の中心となる日本語の表現を提示し、コミュニケーションを展開しています。また、提示されたタスクに取り組むことで、生徒は言語の知識や運用スキルを学習するだけでなく、分析する・検討するなど思考力をつけるように設計されています。

こうした教材のデザインは、『日本語課程標準』が求めている「核心素養」の育成と日本語を使った実践活動のニーズに沿うものだと考えています。

〔事業データ〕

中国中等日本語教師研修
期日：2017/3/24（金）～25（土）、場所：中国・上海、助成：（公財）三菱UFJ国際財団、協力：中国中等日語課程設置校工作研究会、中国教育学会外国語専業委員会日本語部、会場協力：上海市工商外国語学校、講師：林洪・北京師範大学外国語言文学学院日文系准教授、武田育恵・日本語教育専門家、参加者：53名

メールマガジン

「わやわや」を月2回配信しています

2014年6月に配信を開始したメルマガ「わやわや」。配信当初より、「んじゃめな！」コーナーでは、常識にとらわれないで、それまでの固定観念を覆すような活動をしている方や、そうした経験をした方のエピソードを紹介しています。これまでに「んじゃめな！」に登場した方は33人（6月末現在）。ウェブサイトからバックナンバーがご覧いただけます。

また、今年4月より、いろいろな方の、思い出に残る食を紹介する「Oh My Gochi（ゴチ＝ごちそう）」を開始しました。「んじゃめな！」とあわせてお楽しみください。

また、TJFが主催している研修やワークショップ、交流プログラムの募集、イベントの案内などの情報もお届けしています。

「わやわや」の登録はこちらから ▼

「んじゃめな！」にはこんな人が登場

- 違いにとらわれず本質を見る　イオ・パヴェルさん
- 留学生の「困った」は情報の不足が原因　安星（あんしん）さん
- **心を明るくしてくれた「サクラ色」　ナサニエル・カーターさん**
- 日本語教師は韓国と日本の架け橋となる仕事　アン・ジフンさん
- 国際交流は「ネイティブ」よりも「つながり」　茂木俊浩さん

⋮

- 若者の未来のために国際交流を　宮崎健さん
- 社会と繋がる……それこそが、生きること　牧野文幸さん
- 華道を通して知った「異質」は「個性」　胡興智さん

⋮

- ロシア語しか通じない教室で、ロシア語ができない日本語教師奮闘記　中納淳裕さん
- **警察官から韓国語教師に転身　中川正臣さん**
- 韓国語を学びたくて、熊本から長崎の対馬高校へ　蓮田なつみさん
- 聞こえなくたって音楽は楽しめる！　木村正明さん

⋮

心を明るくしてくれた「サクラ色」

ナサニエル・カーターさん

（ニュージーランド・オークランド大学医学部）

……11歳のとき9番目の小学校で日本語に出会いました。といってもあまりいい思い出はなく、授業で勉強させられた日本語は私にとってはただ難しい言語でした。その後、中学生のときにオーストラリアのダーウィンに移り住みました。通うことになった中学校で再び日本語の授業をうけることになったのです。……授業で先生がアンジェラ・アキの「サクラ色」と「孤独のカケラ」を聞かせてくれました。特に「サクラ色」はピアノの音色がすごく美しくてすぐに好きになりました。……転校が多く、2年以上同じ学校にいることがなかった私は、いつの間にか、友だちをつくっても意味がないと思うようになっていきました。そんなつらいときでも日本語を勉強することはとても楽しく、いい気分転換になりましたし、「サクラ色」を何度も口ずさみました。……

警察官から韓国語教師に転身

中川正臣さん

（目白大学客員研究員）

韓国語に初めて出会ったのは、警視庁に勤めていたときです。もう16年ほど前になります。……習いはじめてみたら、どんどんはまっていきました。韓国語自体もおもしろかったのですが、何より韓国人の先生との交流が自分のなかでは非常に大きなことでした。……警察官になって5年目のとき、韓国の語学学校に入学の申し込みをしたのですが、やっぱり留学はできないと思い、キャンセル。それからしばらくしてから、改めて行こうと思い、お金を払う。だけどまた返金してもらう、ということを繰り返しました。……そして警視庁を辞め、韓国の語学学校に入りました。その後、修士課程、博士課程を経て大学教員となり、結局10年間を韓国で過ごしました。……韓国語を学んで、韓国に関わる人と触れ合って、学生がどう変わっていくのか。それを見るのが楽しい。だからずっと韓国語教育にのめりこんでいます。

りんごをかじろう

身近な文化、遠い文化にふれてみよう

TJFでは隣の人とつながるためのことばを「隣語」と呼んでいます。さまざまな言語や文化にふれてもらって、新しい世界を見てもらいたいと思い「りんごをかじろう」プログラムを実施しています。2016年度はイランとモノ研究を取り上げました。

毎回一時間ほど、テーマに関わりのあるお茶やお菓子を楽しみながら、講師や参加者同士がリラックスした雰囲気のなかで交流する時間を設けています。インターネットで何でも検索できてしまう時代だからこそ、実際に人と出会い、学び感じる機会を提供しています。

たいへんな時代を生き抜くためのイラン式 7つの極意

組織に縛られず、猛烈な社交力を発揮して生きるイランの人びと。そのコミュニケーション術には、自分の生き方や、組織と個人のあり方について、「これもありなんだ！」という新たな発見がいっぱいです。『「個人主義」大国イラン　群れない社会の社交的なひとびと』（平凡社新書）の著者・岩﨑葉子さんを講師に招き、イランの生活文化に関する話題も織り交ぜながら、話をしていただきました。

〔事業データ〕 期日：6/25(土)、場所：東京･TJF、参加者：23名

モノ研究の魅力～ナマコとクジラ、ヤシとバナナから見える世界

私たちの便利で豊かな暮らしは、身のまわりのさまざまなモノで成り立っています。「モノ研究」という視点で世界をながめてみます。ナマコ研究家として知られる赤嶺淳・一橋大学大学院教授を講師に招き、「フィールドワーク」の技法で明らかになる、自分と世界のつながりについて知り、一緒に考えました。

〔事業データ〕 期日：12/17(土)、場所：東京･TJF、参加者：17名

TJFを支援してくださっている方々

TJFは皆さまからご協力、ご支援をいただいて事業を行っています。
2016、2017年度も下記の皆さまに支えていただきながら事業を進めています。
改めましてお礼を申し上げます。

賛助会員

〔法人〕

2016年度

伊藤忠紙パルプ（株）　王子製紙（株）　鹿島建設（株）　春日製紙工業（株）　キングレコード（株）　共同印刷（株）
（株）講談社ビジネスパートナーズ　（株）光文社　（株）国宝社　（株）資生堂　（株）世界思想社教学社
第一紙業（株）　（株）第一通信社　大二製紙（株）　大日本印刷（株）　（株）電通　（株）トーハン　図書印刷（株）
凸版印刷（株）　豊国印刷（株）　日興紙業（株）　日本出版販売（株）　日本製紙（株）　日本図書普及（株）
（株）フォーネット社　富士ゼロックス東京（株）　二葉製本（株）　北越紀州製紙（株）　丸王製紙（株）
丸住製紙（株）　丸紅紙パルプ販売（株）　（株）三井住友銀行　三井住友信託銀行（株）　三菱製紙販売（株）
（株）三菱東京UFJ銀行　（株）彌生洋紙店

2017年度

王子製紙（株）　鹿島建設（株）　キングレコード（株）　（株）講談社ビジネスパートナーズ　（株）光文社
（株）国宝社　（株）資生堂　（株）世界思想社教学社　第一紙業（株）　（株）第一通信社　大二製紙（株）
大日本印刷（株）　（株）電通　凸版印刷（株）　豊国印刷（株）　日本図書普及（株）　（株）フォーネット社
富士ゼロックス東京（株）　二葉製本（株）　丸王製紙（株）　三菱製紙販売（株）　（株）三菱東京UFJ銀行

〔個人〕

2016年度

石井誠　市原徳郎　カイト由利子　高崎孝　高嶋伸和　浜田博信　細谷美代子　松井外恵　柳川敦重
匿名希望1名

2017年度

石井誠　市原徳郎　カイト由利子　高崎孝　高嶋伸和　細谷美代子　松井外恵　柳川敦重　匿名希望1名

助成団体

2016年度

漢語橋基金　（一社）尚友倶楽部　（公財）双日国際交流財団　東京韓国教育院　（公財）三菱UFJ国際財団

2017年度

漢語橋基金　（一社）尚友倶楽部　（公財）東芝国際交流財団　（公財）三菱UFJ国際財団
ルースキー・ミール財団

寄付者

2016年度

（株）講談社　石下景教　石塚誠　市原徳郎　内田憲孝　王安　奥本大三郎　小田桐奈美　門脇薫　川津英一郎
神田女学園中学校高等学校　古石篤子　『高校生からの中国語』小渓教材研究チーム　阪上彩子　左治木由美子
菅陽子　高田早苗　田中順子　千場由美子　唐涛　中野貞弘　南潤珍　西山郁枝　長谷川由起子　阪堂千津子
ボンダレンコ・オクサーナ　松澤幸太郎　松原秀行　丸山悠輝　三田崇文　宮崎健　三代純平　村上豊
匿名希望6名

2017年度

（株）講談社　及川伊佐子　久保田達也　『高校生からの中国語』小渓教材研究チーム　玉城眞幸

コラボレーター

2016年度

匿名希望1名

2017年度

井上正順　久保田達也

（敬称略　五十音順　2017年6月末現在）

2017年度の事業

国内外の児童・青少年ならびに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

1. 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたワークショップ
2. 教師研修（プロジェクト学習や評価のデザインなど）
3. 生徒を対象としたワークショップ、レクチャー
4. 隣語講座

ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業

1. 日本の文化と人びと紹介ウェブサイト「くりっくにっぽん」の運営
2. 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営
3. 『好朋友』使用校への教材・資料の提供

互いのことばを学ぶ国内外の児童・青少年ならびに教育関係者の交流事業

1. 日韓・中高校生の交流プログラム
2. 日韓の高等学校校長の交流プログラム
3. 日露教師・生徒の交流プログラム

広報事業

1. 事業報告『CoReCa』の発行
2. メールマガジン「わやわや」の配信
3. ことばと文化の体験プログラム「りんごをかじろう」

TJF設立30周年記念事業

1. 高校生向け「学校のソトで腕だめし」プロジェクト
2. 多言語パフォーマンス合宿
3. 外国語学習におけるゲーミフィケーション活用の研究
4. 30周年記念誌の制作
5. 30周年記念レセプション

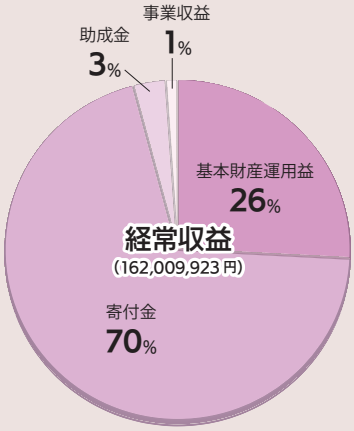
財団の概要

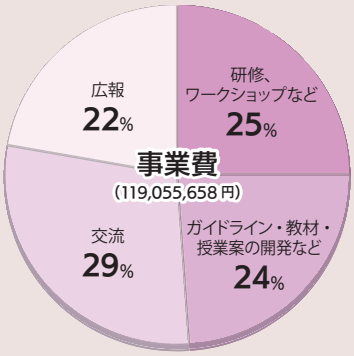
設立　1987年6月22日
2011年4月1日、公益財団法人に移行

出捐企業　王子製紙株式会社　株式会社講談社　大日本印刷株式会社
凸版印刷株式会社　日本製紙株式会社　株式会社三菱東京UFJ銀行

基本財産　20億円

財政規模　2016年度の経常収益は約1億6,200万円、
事業費は約1億1,905万円でした。内訳は以下の通りです。





サポートのお願い

さまざまなことばや文化の学び、交流を通じて、子どもたちが21世紀を生きぬく力をはぐくむことがTJFのミッションです。このミッションを達成するために、共感していただける方々に次のようなご支援をお願いしております。

■寄付
TJFの活動全体に対する寄付、特定の事業を指定する寄付があります。

■賛助会員
継続的な支援をしていただける方に賛助会員になっていただいています。
年会費：〔法人会員一口〕50,000円　〔個人会員一口〕10,000円

寄付金につきましては、税制上の優遇措置が適用され、所得税や法人税の控除を受けることができます。さらに、個人寄付者の皆さまには確定申告の際、減税効果の高い「税額控除方式」を選択していただけます。
ご支援くださる方々には、TJFが発行する印刷物を送付するほか、TJFが主催するイベントのご案内を差し上げています。

財団の概要

評議員会長	野間 省伸	(株) 講談社代表取締役社長
評議員	青山 秀彦	王子製紙 (株) 代表取締役社長
	足立 直樹	凸版印刷 (株) 代表取締役会長
	北島 義斉	大日本印刷 (株) 代表取締役副社長
	長瀬 眞	(株) ANA 総合研究所シニアフェロー
	芳賀 義雄	日本製紙 (株) 代表取締役会長
	山根 隆	(株) 講談社顧問
理事長	渡邊 幸治 *	(公財) 日本国際交流センターシニアフェロー、元駐ロシア特命全権大使
常務理事	内藤 裕之 *	(公財) 国際文化フォーラム常務理事〔常勤〕
業務執行理事	水口 景子	(公財) 国際文化フォーラム事務局長〔常勤〕
理事	上野 田鶴子	特定非営利活動法人日本語教育研究所理事長
	金丸 徳雄	(株) 講談社常務取締役
	輿水 優	東京外国語大学名誉教授
	境　一三	慶應義塾大学経済学部教授
	佐藤 郡衛	目白大学学長
監事	清水 至	公認会計士、(国研) 理化学研究所監事
	白石 光行	(株) 講談社常任監査役
顧問	大春 敦	日本製紙 (株) 執行役員 印刷用紙営業本部長
	小田 厚	(株) トーハン海外事業部長
	北島 義俊	大日本印刷 (株) 代表取締役社長
	酒井 和彦	日本出版販売 (株) 専務取締役
	鈴木 孝夫	慶応義塾大学名誉教授
	藤田 弘道	凸版印刷 (株) 相談役
	鮑 啓東	人材派遣健康保険組合前理事長
	三木 繁光	(株) 三菱東京 UFJ 銀行特別顧問
	吉田 研作	上智大学教授

* は代表理事

任期：評議員一期 4 年、理事、監事、顧問一期 2 年
(敬称略　五十音順　2017 年 6 月末現在)

事務局	事務局長	水口 景子
	事務局次長	藤掛 敏也
	主任	室中 直美
	副主任	千葉 美由紀　長江 春子
	職員	柴田 幹子　沈 炫旼 (シム ヒョンミン)　中野 敦　宮川 咲　森 亮介

CoReCa

Collaboration + **Re**lation + **Ca**talyst

▼

CoReCa

人と Collaboration（協働）しながら、
Relation（関係）を築いていく。
TJF は人びとをつなぐ
Catalyst（触媒）でありたいと思います。

ISSN 2189-6208